大東文化大学大学院中国言語文化学専攻
『中国言語文化学研究』第 11 号(2022)

『紅楼夢』前八十回と後四十回の比較研究
—形容詞重畳式を中心に

A Comparative Study of *Hongloumeng* between the First 80 Chapters and the Rest 40 Chapters about Adjective Reduplication

胡春艶　李永春
HU Chunyan　LI Yongchun

提要：本文以《紅樓夢》的前八十回和後四十回為研究語料，對前後文本中的形容詞重疊式進行了比較，運用統計學的方法考察了其前後的頻率差異，並通過前後文本中的形容詞重疊式的使用情況，探討了前後文本的風格差異，進而對前後文本是否是同一作者進行了檢驗。
キーワード：『紅楼夢』　形容詞重畳式　文体的特徴　統計的比較

目次

1　はじめに
2　形容詞重畳式の特徴
3　作風（style）について
4　比較研究
5　おわりに
引用書目
参考文献

1 はじめに

『紅楼夢』は近代中国語から現代中国語への過渡的な言語資料であり、明清白話小説の代表作である。前八十回は曹雪芹の作と見なされる。後四十回の作者について、徐全太（1990:49）は、①曹雪芹の原作　②高鶚の補作　③作者不明の補作　④杜芷芳の補作　⑤乾隆、和珅が大金で程偉元、高鶚に補作させる。⑥曹雪芹の友人が、曹雪芹の原作によって、整理する。⑦懸案説、の七種類にまとめる。すなわち、後四十回は、曹雪芹の原作、他人の補作、両者の混合の三種類に分けられ、前八十回と後四十回は、同一の作者であるか否かによって議論される。

文学作品の作風は、作者が異なる言語手段を選択することによって、個人のスタイルが

実現される。このような観点から、本稿は、『紅楼夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式という言語手段の観察を通して、作者の文学的な風格を比較することにする。形容詞重畳式は、主観性と描写性を有し、作者の発話の意図と心情を最もよく表す。本稿では統計学におけるZ検定を用い、前八十回と後四十回における形容詞重畳式の使用頻度を比較することにより、作風に関する相違点を明らかにし、作者は同一であるか否かを検証する。

2 形容詞重畳式の特徴

形容詞重畳式は、AA型、ABB型、AABB型などのパターンに分けられる。主観性と描写性を有することは、形容詞重畳式の特性の一つである。

2.1 主観性

Traugott(1995:31)は、「主観化」とは「意味が命題に対する話し手の主観的信念／態度に根ざすようになるプロセスである。」と定義する。沈家煊（2001：270）は、形容詞の重畳式は顕著な主観的な感情を帯びると指摘している。これは、観察者の態度と評価から「主観性」を把握するものである。「主観性」を有する形容詞重畳式は、作者の意図を表現するのに最も適していると考えられる。

2.2 描写性

兪稔生（2007：67）は、中国語の描写性を豊かにする手段としての文法項目のなかで、形容詞の重ね型は描写性が高いと述べている。李勁榮（2014:72, 88）は、描写性は、形容詞の重畳式の基本的な文法的意味であると指摘する。王力（1943／1985：298）は、畳語の語彙手段を、修辞学のレベルで捉え、「擬声法」と「繪景法」の修辞手段に位置付ける。「繪景法是要使所陳述的情景歴歴如繪。(絵景法は、陳述する情景を活写し、絵画のようにさせることである。)」と指摘している。描写性を有することは、形容詞重畳式の特徴として共通認識である。

3 作風（style）について

3.1 定義

作風（style）について、南朝梁代の劉勰は、『文心雕龍』(巻六·体性第二十七）の中で、「若總其歸塗，則數窮八體。(もしもその帰趨をまとめるならば、数は八つのスタイルに尽きる。)」と指摘する。古代の中国語では、作風（style）は、「体」と呼ぶ。高明凱（1963：411-412）は、作風（風格）の定義について、さまざまなコミュニケーションの状況に適応し、特定のコミュニケーションの目的を達成するために、発生した雰囲気と言語のスタイルであると指摘する。

3.2 作品のスタイルの表現

祝克懿（2021:64）は、スタイルは、作品の存在を客観的な基盤として、作者の主体性を

通して、個体のスタイルが実現される主観的な要因であり、「作品」は「文学作品」で、とくに代表的な文学作品を指すと指摘する。作者の主観的な要素が異なれば、自ずと作品のスタイルも異なる。作品の中で、スタイルを表現する手段は言語である。すなわち、作者は異なる言語手段を選択することによって、個人の異なるスタイルを表現できる。

形容詞重畳式は、主観性と描写性を有する言語手段である。形容詞重畳式という言語手段の使用状況は、作者のスタイルを最もよく表現できる。胡裕樹（2011: 505）は、畳語は異なる雰囲気と格調を表すと指摘している。以下は、『紅楼夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式の使用状況を比較し、両者のスタイルの相違点を明らかにする。

4 比較研究

4.1『紅楼夢』前八十回と後四十回の統計的なデータ

本稿の研究対象は、『紅楼夢』前八十回と後四十回における AA 式、ABB 式、AABB 式であり、文成分と語義が形容詞に合致する重畳式である。『紅楼夢』前八十回と後四十回における各形容詞重畳式のパターンに応じて、用例数を調査した。表 1 は『紅楼夢』における形容詞重畳式の語数を示したものである。

表 1『紅楼夢』前八十回·後四十回における形容詞重畳式の語数

形容詞重畳式のパターン	『紅楼夢』前八十回		『紅楼夢』後四十回	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
AA 式	132	580	71	380
ABB 式	64	123	32	66
AABB 式	91	156	69	107

以上のデータから、『紅楼夢』前八十回における AA 式、ABB 式、AABB 式形容詞重畳式は後四十回より多いことが分かった。しかし、『紅楼夢』前八十回の字数[1]は概ね 58 万、後四十回の字数は概ね 27 万であり、分布状況から見れば、前八十回における形容詞重畳式の語数は、後四十回より多いと言えない。

4.2 使用頻度からの比較

『紅楼夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式の使用頻度を比較するため、各回の AA 式、ABB 式、AABB 形容詞重畳式の使用頻度を計算し、統計学の Z 検定を利用し、前八十回と後四十回の相違点があるか否かを検討する。

Z 検定は、正規分布を用いる統計学的検定法で、標本の平均と母集団の平均とが統計学

[1] 字数は「(前八十回) 曹雪芹著 (後四十回) 無名氏續 程偉元 高鶚整理 (2008)『紅楼夢』 人民文學出版社」から統計する。

的にみて有意に異なるかどうかを検定する方法である。

『紅楼夢』前八十回における AA 式形容詞重畳式の使用頻度は正規母集団に従うサンプルＮ１により、後四十回における形容詞重畳式の使用頻度は正規母集団に従うサンプルＮ２によるとする。２つのサンプルは互いに独立していることを条件とする。本節では、以上の統計的な方法を踏まえ、二つの母平均の差に関する検定を用いて、二つのサンプルの平均値には差があるかどうかをテストする。[2]

Ｚ検定の公式：$Z=\frac{\bar{X}-\bar{Y}}{\sqrt{\frac{S1^2}{m}+\frac{S2^2}{n}}}$ [3]

そのうち、$\bar{X}$ は、『紅楼夢』前八十回における AA 式形容詞重畳式の使用頻度の平均値で、$\bar{Y}$ は、『紅楼夢』後四十回における AA 式形容詞重畳式の使用頻度の平均値である。$S_1{}^2$、$S_2{}^2$ は『紅楼夢』前八十回と後四十回における AA 式形容詞重畳式の使用頻度の分散である。m、n はサンプルの回数で、即ち、m＝80、n＝40。

即ち、$\bar{X}=7.25$　　$S_1{}^2=13.6375$

□　　$\bar{Y}=9.5$　　$S_2{}^2=26.2$

$$Z=\frac{\bar{X}-\bar{Y}}{\sqrt{\frac{S1^2}{m}+\frac{S2^2}{n}}}=\frac{7.25-9.5}{\sqrt{\frac{13.6375}{80}+\frac{26.2}{40}}}=-2.46$$

統計学では、一般的に、ある事象の発生確率が 0.05 である、或いは 0.05 より低いと「低確率事件」と呼ぶ。つまり、この事象は 5%の確率でしか発生しない。この低確率事象とは、つまり実際発生する可能性がほとんどない事象と指す。仮説検定では、一般的に元々の仮説（統計学では「帰無仮説」と呼ぶ、以下、元々の仮説を帰無仮説と呼ぶ）が正しいと先に仮定する。たとえば、この仮説に関する検定結果には、低確率事象が発生したことが分かったとしたら、帰無仮説が正しくないことも明らかになる。この場合、帰無仮説を棄却し、対立仮説（帰無仮説と相反する仮説）を採用する。一方、この仮説に関する検定結果には、低確率事象が発生しなかったら、帰無仮説を採用する。この内、帰無仮説を棄却する確率は統計学では『有意水準」と呼び、α と記す。有意水準 α は 0.05 をとると、棄却域は：$|Z|\geq Z1-\alpha/2$ である。$Z1-\alpha/2$ は 0. 975 であり、正規分布表を調べると、対応する値は 1.96 である。[4]

それによって、AA 型形容詞重畳式に関する仮説検定の結果の絶対値は 1.96 より大きいと、帰無仮説を棄却し、対立仮説を採用すべきである。一方、Z の絶対値は 1.96 より小さければ、帰無仮説をそのまま採用する。本研究の場合、|Z| の値は 2.46 であって、1. 96 より大きいため、帰無仮説を棄却し、対立仮説を採用することになる。この結果からすると、前八十回と後四十回の AA 型形容詞重畳の使用頻度についての平均値は、統計学的な

[2] 劉穎 肖天久 （2014）「《紅楼夢》計量風格學研究」『紅楼夢學刊』第四輯 参考
[3] 茆詩松 程依明 濮曉龍（2011:368）『概率論與數理統計教程』高等教育出版社　参考
[4] 同上：P369

視点から見れば、違うことが明らかになった。

また、以上のZ検定でABB式形容詞重畳式、AABBB式形容詞重畳式のZ統計量を計算し、ABB式形容詞重畳式のZ値は-0.33であり、AABB式形容詞重畳式のZ値は-1.86である。ABBとAABB形容詞重畳式の場合、|Z| の値は1. 96より小さいため、帰無仮説をそのまま採用した。この結果からすると、前八十回と後四十回のABB型形容詞重畳とAABB形容詞重畳式の使用頻度についての平均値は、統計学的な視点から見れば、異なりがないと分かった。

4.3 具体的な使用例の比較

4.3.1 AA式形容詞重畳式の使用例の比較

『紅楼夢』は白話小説だが、その中に韻文を混じえている。薛繼生（1986:255）は、『紅楼夢』の前八十回における詩、詞、曲、賦などの韻文を考察した結果、190例に達し、13000字余りであり、前八十回の全文の50分の一を占めると指摘している。しかし、蔡義江（2001/2004）がまとめる『紅楼夢』後四十回における韻文によると、それらは、36例にとどまり、1500字余りに過ぎないことになる。『紅楼夢』前八十回においては、「皚皚」「曖曖」「蒼蒼」「輝輝」などAA式重言の用例が多く見られ、それらは韻文に出現する点が、注目される。『紅楼夢』前八十回におけるAA型形容詞重畳式の132語のうち、49語は韻文から出ており、約三分の一を占める。これに対して、『紅楼夢』後四十回におけるAA型形容詞重畳式の71語のうち、7語のみが韻文から出ており、約十分の一に過ぎない。

『紅楼夢』後四十回における韻文形式には、詩、偈、詞、酒令、歌などがあるものの、前八十回ほど豊富ではない。また、大部分は引用であり、独自の創作ではない。たとえば、「綠窗明月在，青史古人空」（第89回：p1245）について、蔡義江（2001/2004：392）は、この詩は、唐代崔顥の「題沈隱侯八詠樓」からの引用であると指摘する。

このように、『紅楼夢』前八十回と後四十回における韻文の使用率に焦点を当てると、両者には、著しい相違点がある。そのことが、前八十回の韻文におけるAA式重言の豊富さに繋がっている。

4.3.2 ABB式形容詞重畳式の使用例の比較

4.3.2.1 常規（norm）と乖離（deviation）

フィンランドのN.E.Enckvist（1964）は、「style as deviations from the norm（文体スタイルが常規を逸した乖離に由来する）」と定義すると述べる。現代文体学の創始者と言われるフランスのCharles Bally は、単純に理性概念を表す中立的な言語を常規（norm）として、感情効果や特定の社会的ニュアンスを持つ表現手段を乖離（deviation）と見なし、中立的な言語を参考にして、異なる文体の表現方式を比較する。[5]王希杰（1994:11）は、言語のスタイル機能を研究する方法について、零度のいかなる風格を持たない言語材料が存在することを仮定し、その零度の言語材料から様々な乖離を探究すると指摘する。

[5] 許力生（2006：59）『文體風格的現代透視』浙江大學出版社から引用する。

本稿は、『紅楼夢』前八十回と後四十回の作品としての統一性を検証するため、形容詞重畳式という言語手段を採用する。以上の先行研究を踏まえて、形容詞重畳式の基式[6]を零度の中立的な常規とし、形容詞重畳式は基式からの乖離の形式として、異なる作風を表現する。

4.3.2.2　ABB 式形容詞重畳式の乖離

ABB 式形容詞重畳式は、同じ A でも BB によって、ABB の意味が異なる。A は零度の常規として、ABB は BB によって、様々な乖離を表す。

『紅楼夢』前八十回と後四十回における同じ A の ABB 形容詞重畳式は、以下の例を挙げることができる。

①亂烘烘（前）　亂紛紛（前）　亂糟糟（後）　亂騰騰（後）

②黑魆魆（前）　黑鬖鬖（前）　黑漆漆（後）　黑油油（後）

③直蹶蹶（前）　直挺挺（前/後）直瞪瞪（前/後）直滾滾（後）

④氣恨恨（前）　氣昂昂（前）　氣狠狠(前/後)　氣哼哼（後）氣嘘嘘（後）氣忿忿（後）

⑤白漫漫（前）　白汪汪（前）　白花花（前/後）白茫茫（前/後）

以下に、「白漫漫　白汪汪　白花花　白茫茫」を例に、説明してみよう。

(1)好一似食盡鳥投林，落了片白茫茫大地真乾淨！（第 5 回：p86）

(2)如此親朋你來我去，也不能勝數。只這四十九日，甯國府街上一條白漫漫人來人往，花簇簇官去官來。（第 13 回：p175）

(3)大門上門燈朗掛，兩邊一色戳燈，照如白晝，白汪汪穿孝僕從兩邊侍立。請車至正門上，小廝等退去，眾媳婦上來揭起車簾。（第 14 回：p184）

(4)銀庫上按數發出三個月的供給來，白花花二三百兩。賈芹隨手拈一塊，撂予掌平的人，叫他們吃茶罷。（第 23 回：p309）

(5)眼見得白花花的銀子，只是不能到手。（第 99 回：p1360）

(6)賈政還欲前走，只見白茫茫一片曠野，並無一人。（第 120 回：p1592）

張美蘭（2001：21）は、ABB 形容詞は「象生動性」を有し、ある性質や状態を指すだけではなく、それらのイメージや反映している感情を十分に表現すると指摘している。ABB 形容詞重畳式は乖離を最もよく表現できる言語手段であると言えよう。

例文(1)(6) の「白茫茫」は、「大地」「曠野」を修飾し、観察者の視点は、地面に近く、雲、霧、水などが白く一面に広がっているさま、ぼんやりとした感じを表す。

例文(2)の「白漫漫」は「形容一片白色」（『漢語重言詞詞典』）と解釈する。「漫漫」は「一面」の意味で、観察者は、近くから遠くまでの広い視点で認知する。この場面では、白の喪服を着る人が多いため、寧國通りは、観察者の目に触れる限りに、あたり一面の白いさ

[6] 石毅（2010:1）は、重ねられた基礎形式を基式と呼ぶ。

まであることを形容する。寧国府の気勢のすさまじさと葬儀の豪華さを批判する感情を表す。[7]「白漫漫」は常規の「白」からの乖離も表す。

例文（3）の「白汪汪」は、『紅楼夢』の庚辰本に初出である。[8]「汪汪」は「水深廣貌」「液體盛滿貌」「水光蕩漾貌」（『漢語重言詞詞典』）と解釈される。曹雪芹が鳳姐の視点から、両側の提灯が昼のように照り映え、喪服を着用した従僕たちに反射するさまは、あたかも水面に反射したかのような視覚的な印象になる。鳳姐の観察者を借用し、曹雪芹の独特なイメージを表し、常規の「白」からの乖離も表す。

例文の（4）（5）の「白花花」は、白く輝く銀を形容する。光っていることに焦点を当てる観察者の認知視点を表す。[9]

以上の例からわかるように、A はすべて「白い」という色を表し、BB により、ABB 形容詞重畳式は、観察者の個人的な認知を通していることから、焦点が異なり、主観性と感情を表す。すなわち、ABB 形容詞重畳式は、BB を通して、A からの様々な乖離を表す。『紅楼夢』前八十回における ABB 形容詞重畳式は、後四十回より豊富で多彩であることにより、作者の異なる感情を表し、異なる作品のスタイルも表す。特に、曹雪芹が初めに使用する例語は、自分の特別な作品スタイルを表現することにつながるのである。

4.3.3 AABB 式形容詞重畳式の使用例の比較

胡裕樹（2011：506）は、「語彙の中の風格要素は、同義語の中で特に明らかに表現されており、異なる感情と文体を持つ同義語は、異なる言語スタイルを表現するのに用いることができる」と指摘している。また、祝克懿（2021：66）は、「同義手段選択論」とまとめる。すなわち、同義語の中で、異なる語彙を選択するによって、異なる言語のスタイルを表す。

『紅楼夢』前八十回と後四十回における AABB 形容詞重畳式は、AA＋BB の形式からなる同義語があり、その同義語を通して、言語のスタイルを検討してみることにする。

『紅楼夢』前八十回と後四十回における同義語の AABB 形容詞重畳式は以下を挙げることができる。

①拉拉扯扯（前/後） 扯扯拽拽（後）

②鬼鬼祟祟（前/後）溜溜湫湫（後）

③妖妖趫趫（前）妖妖喬喬（後）

④恍恍惚惚（前/後）恍恍忽忽（前/後）

⑤烈烈矗矗（前/後）矗矗烈烈（後）

③④⑤のグループは意味が同じで、表記と語順に相違点がある。

以下、『紅楼夢』における「拉拉扯扯　扯扯拽拽」と「鬼鬼祟祟　溜溜湫湫」の例文を挙

---

[7] 胡春艷（2021）「『紅楼夢』前八十回における形容詞重畳式--ABB 型を中心に」『外国語学研究』第 23 号大東文化大学大学院外国語学研究科

[8] 文昌榮（1997：15）『描萃詞辭典』 中國青年出版社

[9] 同上

げる。

（7）林黛玉將手一摔道：“誰同你拉拉扯扯的。一天大似一天的，还这么涎皮赖脸的，连个道理也不知道。”（第 30 回：p408）
（8）我劝你走罢，别拉拉扯扯的了。我们还有正经事呢。（第 77 回： p 1077）
（9）五兒急得紅了臉，心裡亂跳，便悄悄說道：“二爺有什麼話只管說，别拉拉扯扯的。”（第 109 回：p1466）
（10）周瑞家的一面勸說：“只管瞧瞧，用不著拉拉扯扯。”（第 113 回：p1403）
（11）便有許多王孫公子要求娶他，又有些媒婆扯扯拽拽扶他上車，自己不肯去。（第 87 回：p1227）

「拉拉扯扯」について、「①謂拉拽。常表示爭執，爭鬥。（引っ張るという。常に紛争、争いを表す。）②謂牽手挽臂，表示親暱。（手をつないで腕を組んで、親密ぶりを表す。）」という意味で、「拉拉拽拽」について、「牽拉，連續不斷的牽拉。（引き続けること、絶えずに引き続けること。）」と解釈する。（『漢語重言詞詞典』）例文の（8）（10）の「拉拉扯扯」は、「引っ張る」という意味で、例文の（7）（9）の「拉拉扯扯」は、「手をつないで腕を組んで、親密ぶりを表す。」という意味である。例文の（11）の「拉拉拽拽」は、「拉拉扯扯」の「引っ張る」の意味と同じで、後四十回に異なる同義語を使う。

（12）我只問你們：有話不明說，許你們這樣鬼鬼祟祟的幹什麼故事？（第 9 回： p 135）
（13）襲人正要說話，只見那一個也慢慢的蹭了過來，細看時，就是賈芸，溜溜湫湫往這邊來了。（第 85 回：p1195）

「鬼鬼祟祟」は、「謂行動躲躲閃閃，不光明正大。（行動がこそこそと、堂々としてない。）」と解釈する。「溜溜湫湫」は、「形容躲躲閃閃，輕手輕腳的樣子。（こそこそと足音をひそめている様子を形容する。）」と解釈する。（『漢語重言詞詞典』）前八十回と後四十回は、異なる同義語を使用する。
以上のように、AABB 形容詞重畳式の使用には相違点があり、同義語の選択という観点から、前八十回と後四十回のスタイルは、相違点があることが窺える。

5 終わりに

本稿は『紅楼夢』前八十回と後四十回における AA 式、ABB 式、AABB 式形容詞重畳式を統計的に処理し、比較を行った。回ごとに形容詞重畳式の使用頻度を考察すると、茆詩松ほか（2011）に詳述されている統計学の Z 検定から、以下のことがわかった。第一に、前八十回と後四十回における AA 形容詞重畳式の使用頻度についての平均値は著しい相違

点があること、第二に、ABB 式と AABB 形容詞重畳式の使用頻度についての平均値は、異なりがないこと。

前八十回における AA 式重言は、後四十回における AA 式重言より多い。これは、前八十回における韻文の豊富さと関わっていた。N.E.Enckvist（1964）に述べられている風格（style）学の常規と乖離の理論を踏まえて、前八十回と後四十回における同じ A の ABB 形容詞重畳式を比較すると、前八十回における ABB 形容詞重畳式には、乖離の形式がもっとも多いことが分かった。風格（style）学の同義選択論によって、前八十回と後四十回における同義の AABB 形容詞重畳式を比較すると、両者の使用状況が異なっており、異なる同義語を選択する。

本稿の考察の結果、『紅楼夢』前八十回と後四十回における形容詞重畳式に相違点があることから、前後の作者は必ずしも一人ではないとは言えないが、少なくとも後四十回に他人の補作の跡があるという仮説を提出することが出来る。

付記

本研究は、2021 年度黑龙江省哲學社會科學研究規劃項目「基於概念場的漢語身體位移動詞歷時演變與其共時分佈研究」（課題番号：21JYB159、研究代表者：李永春）の助成を受けている。

引用書目

（前八十回） 曹雪芹著 （後四十回）無名氏續 程偉元 高鶚整理（2008：1026）『紅樓夢』人民文學出版社

参考文献

蔡義江（2001/2004）『紅樓夢詩詞曲賦鑒賞』中華書局

高明凱（1963）『語言論』科學出版社

胡春艶（2021）「『紅楼夢』前八十回における形容詞重畳式について——ABB 型を中心に」『外国語学研究』第 23 号　大東文化大学大学院外国語学研究科

胡裕樹（2011）『現代漢語（重訂本）』上海教育出版社

李勁榮（2014）『現代漢語形容詞生動形式的語用價值』 中國社會科學出版社

南朝梁 劉勰著 王運熙 周鋒撰（1998）『文心雕龍譯註』上海古籍出版社

茆詩松 程依明 濮曉龍（2011）『概率論與數理統計教程』高等教育出版社

沈家煊（2001）「語言的“主觀性”和“主觀化”」『外語教學與研究』第 4 期：p268-275

石鋟（2010）『漢語形容詞重疊形式的歷史發展』商務印書館

汪維懋（1999）『漢語重言詞詞典』軍事誼文出版社

王力（1943 / 1985：298）『中国現代語法』商務印書館

王希傑（1994）「語言風格和民族文化」程祥徽、黎運漢主編『語言風格論集』澳門寫作學會 南京大学出版社

文昌榮（1997）『描摹詞辭典』中國青年出版社
徐全太（1990）「『紅樓夢』後四十回研究資料綜述」『河南大學學報 』第 2 期:p49-59
許力生（2006）『文體風格的現代透視』浙江大學出版社
薛繼生（1986）『紅樓采珠』百花文藝出版社
俞稔生（2007）「中国語の描写性を豊かにする」長崎ウエスレヤン大学『現代社会学部紀要』5 巻 1 号：p67-72
張美蘭（2001）『近代漢語後綴形容詞詞典』貴州教育出版社
祝克懿（2021）「語言風格研究的理論淵源與功能衍化路徑」『當代修辭學』第 1 期：p59-70
Enckvist，N.E.et al（1964）. *Linguitics and Style*. OxfordUniversity Press
Traugott, E.C.（1995）.*Subjectification in grammatical-ization* .In Stein &Wright 1995.p31-54